

伊都キャンパスの生活状況等に関するアンケート結果の概要

平成26年5月

九州大学新キャンパス計画専門委員会

福利厚生施設WG

1. 調査の目的

伊都キャンパスで勉学している学生のキャンパスライフの状況等に関する意向調査を実施し、その結果を基にして、伊都キャンパスにおける学生生活支援施設（食堂・課外活動施設等）の運営及び学生寄宿舍の整備等への活用並びに周辺地域での学生用宿舎の建設促進を図るためにアンケートを実施するもの。

2. 調査対象

平成25年11月現在、伊都キャンパスで勉学している学生

- ・全学教育（教養教育）を学んでいる学部学生
- ・理学部（数学科）、工学部及び21世紀プログラム課程の学生
- ・比較社会文化学府、数理学府、工学府、システム情報科学府、統合新領域の学生

3. 調査期間

平成25年11月5日（火）～平成25年12月27日（金）

4. 調査方法

Web上で記名によるアンケート調査

5. 回収結果

(1) 有効回収数 438人

(2) 回収内訳

学部学生 259人 (59.1%) 修士課程 145人 (33.1%)

博士課程 23人 (5.3%) 研究生等 0人 (0.0%)

無回答 11人 (2.5%)

※内、外国人留学生 35人 (8.4%)

(3) 回答者の性別

男 77.2% 女 19.6% 無回答 3.2%

6. アンケート回答結果の概要

(1) 通学方法について

- ① バイク・原付の利用 (16.1%) は昨年度 (7.8%) より大きく伸びている。

② 公共交通機関の利用は、男子学生より女子学生のほうが多い。男性ではバイク・原付が増加し、糸島コミュニティバスの割合が減少している。一方、女性ではバイク・原付が若干増加し、昭和バスが減少している。

③ 全学共通ICカードの利用割合が21.5%（94人）と高く、昨年度との大きな違いとなっている。エコルカードは逆に大幅減少している。

(2) 通学時間について

① 伊都キャンパスでは、通学時間が30分未満の学生の割合が65.3%である。このことから、キャンパス近郊に居住している学生が多いことが分かる。

② 通学時間が1時間以上の学生は16.7%であり、昨年度（24.5%）より減少している。

③ 公共交通機関の利便性向上についての要望として、平日並びに土日祝におけるバスの充実及び鉄軌道系の導入、夜遅くまでのバス運行を要望する学生の割合は昨年度と同様に高いが、回答者数に対する要望数は大きく減少している。

(3) 住居について

① アパート等（ドミトリ、学生寄宿舍を含む。）に居住する学生の割合は72.3%であった。また、自宅等に居住する学生の割合は24.4%であった。アパート・マンションは伸びている。

② アパート・マンションに居住する学生の割合は、男子学生が71.6%、女子学生が48.8%で、若干、女子学生が減少している。

(4) 部屋代（1ヶ月）について

① 4万円以上5.5万円未満の学生の割合は、46.2%であった。逆に、3.5万円未満は減少している。

(5) キャンパス移転に伴う転居について

① 51.1%の学生が既に転居を完了していると回答している。転居しないと答えた割合は41.3%となっている。昨年度とあまり変わらない。

② 転居した又は転居を希望するエリアは、福岡市西部（九大学研都市駅周辺）が34.2%で最も高く、次いで、福岡市西部（周船寺駅周辺）が23.3%であり、昨年度と順位が逆転している。

(6) キャンパス生活について

① 伊都キャンパスの食事についてみると、主に大学内の食堂が41.6と高く、昨年度と変わらない。

② 食事の価格についても昨年度とほぼ同様な傾向である。

③ 伊都キャンパスでの学生生活に「非常に満足している」及び「満足している」割合は35.6%である。また、「非常に不満である」及び「不満である」と回答した割合は33.3%であり、昨年度と変わらない。

④ 男女別では、「非常に満足している」及び「満足している」割合は、男子学生34.9%、女子学生44.2%であり、「非常に不満である」及び「不満である」と回答した割合は、

男子学生35.5%、女子学生26.8%となっている。

⑤外国人留学生についてみると、「非常に満足している」及び「満足している」割合は40.0%、「非常に不満である」及び「不満である」と回答した割合は、31.4%となっている。

⑥キャンパス周辺に必要な施設については、「飲食店」が297件で最も多く、次いで「コンビニ・スーパー」が250件と多く、昨年度に比べ、娯楽施設の要望の減少したことが分かる。